

安全データシート

作成日 2008年8月25日
改定日 2022年5月11日
(第7版)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : シリコーンスプレー
製品コード : 14175

会社名 : 株式会社コスモビューティー
住所 : 大阪市中央区内本町1丁目1番1号 OCTビル
担当部門 : 研究部
担当者 : 矢野 貴史
電話番号 : (06) 7639-5361
FAX番号 : (06) 7639-5368
推奨用途及び
使用上の制限 : 自動車、機械部品等の潤滑・つや出しおよびプラスチック成型時の離型
整理番号 : 14175S07

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	: エアゾール	区分1
健康に対する有害性	: 急性毒性(経口) : 急性毒性(経皮) : 急性毒性(吸入・蒸気) : 皮膚腐食性/刺激性 : 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 呼吸器感作性 : 皮膚感作性 : 生殖細胞変異原性 : 発がん性 : 生殖毒性 : 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 誤えん有害性	
環境に対する有害性	: 水生環境有害性 短期(急性) : 水生環境有害性 慢性(長期間) : オゾン層への有害性	

※ 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 極めて可燃性の高いエアゾール
高圧容器: 熱すると破裂のおそれ

注意書き

- 〔安全対策〕 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
使用後も含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- 〔保管〕 : 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。
- 〔廃棄〕 : 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
エアゾール缶を廃棄する場合は、中身を使い切ってから火気のない屋外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜くこと。火中に投入すると爆発のおそれがあるので、絶対に焼却しないこと。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

組成及び含有量

化学名又は一般名	含有率(%)	化管法 ⁽¹⁾	化審法 ⁽²⁾	安衛法 ⁽³⁾	CAS番号
シリコンオイル	非公開	—	(7)-476	—	63148-62-9
LPG(噴射剤)	非公開	—	(9)-1697	—	68153-81-1

(1) 化学物質排出把握管理促進法 官報公示整理番号(平成21年10月1日施行)

(2) 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 官報公示整理番号

(3) 労働安全衛生法 第57条 施行令第18条第1号別表第9 (名称等を通知すべき危険物及び有害物) 政令番号(令和3年1月1日施行)

—: 該当しない

4.応急措置

- 吸入した場合 : 使用中に気分が悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、速やかに通気の良い場所で安静にすること。気分が回復しない場合は医師の診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに石鹼を使用してよく洗い落とすこと。異常がある場合は医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 目を擦らず直ちに清浄な水で15分間以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易外せる場合は外して洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中をよくすすぎ、無理に吐かせないでコップ1-2杯の水または牛乳を飲ませるなどの処置をすること。気分が悪いときは医師の診断を受けること。

5.火災時の措置

- 消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂
初期火災には粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
- 使ってはならない消火剤 : 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置 : 作業の際には保護具(保護眼鏡、保護手袋、保護マスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。
屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
こぼれた場合はすべりやすいため注意する。

環境に対する注意事項	: 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
除去方法	: 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。 漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
二次災害防止法	: 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 取扱いは換気のよい場所で行うこと。 屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業すること。 眼、皮膚、衣類に付けないこと。 保護手袋及び保護眼鏡を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 熱、火花、裸火、高温のものから遠ざけること。ー禁煙 火気注意
局所排気・全体換気	: 取扱う場合は、屋外または全体換気の設備のある場所で取扱う。
安全取扱い注意事項	: 容器を転倒、落下させ、衝撃を与え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
保管	
安全な保管条件	: 直射日光を避け、換気のよい場所で容器を密閉し保管すること。 施錠して保管すること。 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。 酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。
容器包装材料	: 他の容器に移し替えて保管しないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 設定されていない
ACGIH	: 設定されていない
設備対策	: 取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 特に必要としない。
手の保護具	: 必要に応じて保護手袋を使用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡を使用する。
皮膚及び身体の保護具	: 必要に応じて保護衣を使用する。

9.物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: ほとんど無臭
融点／凝固点	: -183 ~ -20 °C : IUCLID (2000)【LPG】
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: -162 ~ -0.5 °C (1013hPa):IUCLID (2000)【LPG】
可燃性	: 可燃性
爆発限界及び爆発上限界 ／可燃限界	: データなし
引火点	: > 300 °C【シリコーンオイル】、<-56 °C:IUCLID (2000)【LPG】
自然発火点	: 約400 °C【シリコーンオイル】、405 °C:NFPA (13th、2006)【LPG】
分解温度	: データなし
pH(原液)	: 測定不可
動粘性率(25 °C)	: 1,000 mm ² /s(代表値)
溶解度	: 水に不溶。
n-オクタノール／水分配係数	: 該当しない
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度(25 °C)	: 0.99(代表値)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 該当しない
その他のデータ	: 使用温度範囲: -50 ~ 200 °C

10.安定性及び反応性

安定性	: 通常の条件では安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: 高温(40 °C以上)になる場所、直射日光の当たる場所、凍結のおそれのある場所で保管しない。
混触危険物質	: 強酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物	: 二酸化ケイ素、一酸化炭素、二酸化炭素などの酸化炭素類、微量の不完全燃焼した炭素化合物、ホルムアルデヒド。

11.有害性情報

急性毒性	
経口	: 【シリコーンオイル】 LD50: >50 ml/kg(ラット、経口)、LD50: >2,000 ml/kg(ラビット、経皮)
皮膚腐食性/刺激性	: 情報なし
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	: 情報なし
呼吸器感作性 又は皮膚感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 情報なし
誤えん有害性	: 情報なし

12.環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期 : 情報なし
(急性)

水生環境有害性 慢性 : 情報なし
(長期間)

オゾン層への有害性 : 情報なし

他の有害影響 : 情報なし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

エアゾール缶を廃棄する場合は、中身を使い切ってから火気のない屋外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜くこと。火中に投入すると爆発のおそれがあるので、絶対に焼却しないこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14.輸送上の注意

国際規制

国連分類 : クラス2:ガス類(区分2.1引火性)

国連番号 : UN1950

品名(国連輸送名) : エアゾール(容積が1L以下のもの)

容器等級 : 該当しない

国内規制

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法に定められた輸送方法に従う。

海上輸送 : 船舶安全法に定められた輸送方法に従う。

航空輸送 : 航空法に定められた輸送方法に従う。

輸送の特定の
安全対策及び条件 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
直射日光・高温多湿を避ける。火気注意。

緊急時応急措置指針番号 : 126

15.適用法令

化学物質排出把握管理促進法 : 非該当

(平成21年10月1日施行)

労働安全衛生法

危険物 : 施行令別表第1危険物(可燃性のガス)

有機溶剤中毒予防規則 : 非該当

名称等を表示すべき危険 : プタン

物及び有害物
(令和3年1月1日施行)

(シリコンスプレー, 株式会社コスモビューティー, 14175S07, 2022年5月11日)

名称等を通知すべき危険 物及び有害物 (令和3年1月1日施行)	: 政令番号482【ブタン】
毒物及び劇物取締法 (令和4年2月1日施行)	: 非該当
高圧ガス保安法	: 適用除外要件を満たしたエアゾール製品のため適用外
消防法	: 指定可燃物可燃性液体類【シリコンオイル】 危険物の規制に関する政令第1条の10(届出を要する物質の指定)【液化石油ガス】
船舶安全法	: 危険物[品名:エアゾール、分類:高圧ガス、項目:引火性高圧ガス、等級:2.1][危険物船舶運送及び貯蔵規則]
航空法	: 危険物[品名:エアゾール(引火性のもの)(毒物、腐食性物質又は毒性ガスを含まないもの)、分類:高圧ガス、区分:引火性ガス、分類番号または区分番号:2.1][航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示]

16.その他の情報

参考文献

原料メーカーSDS

独立行政法人 製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム」データベース(CHRIP)

厚生労働省 職場のあんぜんサイト「GHS対応モデルSDS」

改訂情報

- 2008年8月25日(第1版) : 初版発行
- 2010年1月26日(第2版) : 化管法(PRTR法)改正による改訂
- 2010年5月13日(第3版) : 成分情報および使用温度範囲追加
- 2011年12月20日(第4版) : GHS対応版へ改訂
- 2016年7月13日(第5版) : SDSへ改訂(JIS Z 7253 準拠)および労働安全衛生法改正(平成28年6月1日)による改訂、住所変更、製品名変更(旧製品名:クリンバー シリコンスプレー)
- 2017年6月12日(第6版) : 労働安全衛生法改正(平成29年3月1日施行)による改訂
- 2022年5月11日(第7版) : 労働安全衛生法改正(令和3年1月1日施行)および毒物及び劇物取締法改正(令和4年2月1日施行)、日本工業規格の改正(JIS Z 7252:2019 および JIS Z 7253:2019)による改訂、オフィス移転による住所等変更

記載内容の取扱い

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータの評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。また、記載内容は新しい知見などにより予告なく改訂することがあります。

記載内容の問合せ先 : 株式会社コスモビューティー 研究部
電話番号 (06) 7639-5361
FAX番号 (06) 7639-5368
